

日照不足・多雨及び台風 24 号の接近に伴う農作物等の被害軽減対策について

平成 30 年 9 月 27 日

広島県農林水産局農業技術課

I 長雨・日照不足

9月20日、広島地方気象台から「日照不足と多雨に関する広島県気象情報 第1号」が発表されました。9月はじめから日照時間が少なく降水量の多い状態が続いています。この状態は、今後2週間程度は続く見込みです。今後、農作物への影響が懸念されるため適切な管理作業を行ってください。

日照不足と多雨に関する広島県気象情報 第1号

平成30年9月20日16時20分

広島地方気象台 発表

広島県では、9月はじめから、前線や台風、湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、日照時間が少なく、降水量の多い状態が続いています。9月4日から19日までの日照時間は平年の50から60パーセント程度となっており、降水量は平年の300パーセントに近い所があります。

今後2週間程度は、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、日照時間が少ない状態が続き、降水量は多くなる見込みです。

表 日照時間と降水量(9月4日～19日(速報値))

	日照時間(H)	平年比(%)	降水量(mm)	平年比(%)
広島	48.6	54	137.5	154
呉	54.1	61	140.5	186
福山	50.9	56	172.5	267

作物	対策
水稲	<ol style="list-style-type: none">1 天候が回復次第、すぐに収穫できるよう排水対策を行うこと。2 籾は高水分となっているため、コンバイン収穫時に損傷粒等の発生がないよう、コンバインの走行速度を落としたり、こぎ胴回転数を調整すること。3 収穫は降雨の合間をぬって行うが、乾燥能力に見合った収穫と収穫後は速やかに乾燥作業へと移り、品質低下を防止すること。4 乾燥作業は通風乾燥から始め、徐々に加温し穀温が40℃以下で乾燥作業を実施すること。特に、急激な乾燥は胴割れ等品質低下や食味低下の危険性が大きいので行わないこと。5 倒伏、穂発芽したものは分別して収穫・乾燥を行い、品質低下を防ぐこと。
大豆	<ol style="list-style-type: none">1 圃場の排水に努めること。2 病害が発生しやすいため、必要に応じて防除すること。

施設園芸 (野菜・花き)	<ol style="list-style-type: none"> 1 施設周りの排水を徹底し、内部への水の侵入を防ぐこと。 2 昼間は十分に換気し、過湿にならないよう通風をよくすること。寡日照が続く中での晴天は急激な温度上昇による葉やけなどを起こしやすいので注意すること。 3 適切な薬剤散布により病害発生を防ぐこと。
野菜 (露地)	<ol style="list-style-type: none"> 1 圃場の排水に努めること。 2 病害が多発しやすいので、防除を徹底すること。 3 必要に応じて葉面散布を行い、草勢の回復に努めること。また、肥料が流亡した場合は、草勢を見ながら早めの追肥を行うこと。
果樹	<ol style="list-style-type: none"> 1 園地の排水に努めること。 2 耕土が流亡し、根が露出している場合は、客土により覆土すること。 3 病害の多発が懸念されるため、薬剤散布を行い予防に努めること。
花き	<ol style="list-style-type: none"> 1 圃場の排水に努めること。 2 肥料の流亡が予想される場合は、葉色を見ながら追肥すること。 3 病害の多発が懸念されるため、薬剤散布を行うこと。
畜産	<ol style="list-style-type: none"> 1 畜舎の周りや運動場の排水対策に努めること。 2 畜舎内の通風と換気に努め、敷料は早めに交換すること。 3 飼料作物の栽培圃場の排水に努めること。

II 台風24号

台風24号(チャーミー)の接近に伴い、今後の進路によっては、広島県でも強風及び大雨による農作物等への影響が懸念されます。

最新の気象情報に注意しながら、被害を最小限に食い止めるよう対策に努めてください。

作目	事前対策	事後対策
水稻	<ol style="list-style-type: none"> 1 収穫間近のほ場では、若干早くても収穫できる時に収穫する。 2 ほ場周囲に排水溝を掘るとともに乾き難いほ場では、ほ場内にも排水溝を設けて、倒伏した場合の穂発芽の軽減を図るとともに、適期に収穫できるように努める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 倒伏した場合は、排水に努めるとともに株の上に穂を持ち上げ、穂発芽の発生を抑制する。また、収穫適期に近い場合は、若干早くても収穫する。 2 倒伏した株の籾や早刈りした籾は水分含量が高く、変質しやすい。また高温で継続乾燥すると胴割れが発生し易くなるので、収穫後直ちに通風乾燥等の予備乾燥を行い、徐々に乾燥する。 3 倒伏した株等を収穫した場合は、土壌など異物が混入し易いため、調製は丁寧に行う。

大豆	1 表面水が早期にほ場外に排水できるように明渠を敷設する。	1 滞水している場合、速やかにほ場外に排水する。
野菜	1 表面水が早期にほ場外に排水できるように明渠を敷設する。 2 収穫可能なものは早めに収穫する。 3 アスパラガス等支柱やネットを設置しているものは、倒伏等しないよう補強する。 4 ハウス栽培の対策については、「施設（ハウス）」の項を参照。	1 滞水している場合、速やかにほ場外に排水する。 2 草勢の回復が必要な場合は、液肥の葉面散布など適切な管理を行う。 3 強風によって生じた傷等から病気が発生しやすくなる。病気の発生を抑制するため殺菌剤の散布など適切な防除に努める。薬剤散布に当たっては、使用基準を厳守する。
花き	1 倒伏防止のため事前に支柱を増やす等により、ネットの補強を行う。 2 ほ場の数箇所に排水溝を設置し、滞水しないように配慮する。 3 ハウス栽培の対策については、「施設（ハウス）」の項を参照。	1 滞水している場合、速やかにほ場外に排水する。 2 傾いた支柱やずれたネットは、風雨がおさま次第、直ちに補修する。 3 草勢の回復が必要な場合は、液肥の葉面散布など適切な管理を行う。 4 強風によって生じた傷等から病気が発生しやすくなる。病気の発生を抑制するため殺菌剤の散布など適切な防除に努める。薬剤散布に当たっては、使用基準を厳守する。
果樹	1 防風網や防風ネットを点検・補強する。 2 高接ぎした枝や果実の重みによる枝の折損を防止するため、支柱を立て枝を誘引する。 3 苗木や幼木は根張りが不十分なために倒伏する可能性があるため、支柱を立て誘引する。 4 収穫期を迎えた果実は早めに収穫する。 5 棚栽培の果樹は、棚を点検・補強(棚面を鉄パイプで補強する、支柱を増やす、棚線を張り直して緩みをなくす等)し、枝を棚面に誘引する。 6 カンキツ類で多いシートマルチ栽培は、シートマルチが強風であおられると風ズレ果や枝折れが発生しやすくなるため、シートマルチの押さえを点検・補強する。(風で飛ばないように、土のう等で補強する。) 7 ハウス栽培の対策については、「施設（ハウス）」の項を参照。	1 強風によって枝葉や果実についたキズにより病気の発生が多くなるので防除を徹底する。薬剤散布に当たっては、使用基準を厳守する。 2 雨が少なく潮風のみの場合は、できるだけ早く水で葉に付着した塩分を洗い流す。 3 落果した果実等は、早期にほ場外へ持ち出し適切に処分する。

施設 (ハウス)	<p>1 ハウスにはスジカイを入れたり、浮き上がり防止策として杭をしっかりと打ち込み、ビニール押さえのマイカー線等を張り直しておく。</p> <p>2 強風時には、完全密閉する。換気扇がある場合は、動かしてハウス内を負圧にしておく。</p> <p>3 被覆資材の上から大きい目のネットなどで押さえをするとビニールの振動が軽減でき、強風に耐えやすい。</p> <p>4 ハウスの強度を上回る強風が予想される場合(最大風速が毎秒 30m以上が一つの目安)、事前にビニールを取り外し、ハウス本体の破損を防ぐ。</p>	<p>1 台風通過後、晴天となりハウス内の気温が急激に上昇することがあるので、作物がある場合には温度管理に十分注意する。</p> <p>2 破損箇所は、できるだけ速やかに修理、補修する。</p>
畜産	<p>1 強風被害防止のため畜舎や堆肥舎、飼料庫等の補強を行う。</p> <p>2 雨水等の吹き込み、流入を防ぐために周辺の排水施設等の点検、補修等を行う。</p> <p>3 家畜の感電死や火事等を起こさないよう、電気設備等の点検、雨水対策等を行っておく。</p> <p>4 停電等に備え、必要な発電機等の手配をしておく。</p> <p>5 柵等の破損を防ぐため、補強等を行う。</p> <p>6 柵の破損等による脱柵を防ぐため、安全な場所や畜舎等に牛を収容する。</p> <p>7 飼料畑の排水対策等に努める。</p> <p>8 飼料用トウモロコシ等、収穫期の長大作物で、強風等による倒伏が懸念される場合は、事前に刈取り、サイレージの調整等を行う。</p>	<p>1 水にぬれた飼料で腐敗の恐れがあるものは、家畜には給与しない。</p> <p>2 畜舎に雨水が流入した場合、速やかな排水に努め、水が引いた後に消毒する。</p> <p>3 堆肥舎に雨水等が流入した場合、オガクズ等で水分調整を行い、再度発酵させる。</p> <p>4 放牧地では、牧柵等の破損、土砂崩れ等の被害が無いことを確認した上で放牧する。</p> <p>5 飼料畑が冠水したり、土砂の流入、侵食等が発生した場合は、速やかに現状回復に努める。</p> <p>6 収穫期の牧草が倒伏した場合、速やかに収穫調整等を行う。</p>

問合せ先

西部農業技術指導所	東広島市八本松町原 6869	電話 082-420-9661
東部農業技術指導所	福山市三吉町 1 丁目 1-1	電話 084-921-1311
北部農業技術指導所	三次市十日市東 4 丁目 6-1	電話 0824-63-5181
県庁農業技術課	広島市中区基町 10-52	電話 082-228-2111